

新潟見聞扣 天保年間

リ 5  
5743





新  
見分書扣

昭和十五年三月一日  
寄  
木島謙吉氏贈



門リ 5  
號 5743  
卷

一 秘傳屋敷出火件

一 権現森日山

一 書指経起件

一 柏崎河満起件

一 舟分差汗(起起件)

一 北廻経起件

一 川傷人件

一 共西書母経起件

一 出字(り)の病起件

一 生不不知女病起件

一 新田船満起件

一 白山倉満起件

一 如(り)ろ(ろ)付(付)古(古)満起件

一 三國漢水(主)満起件

一 古(古)河(河)通(通)三(三)河(河)繁(繁)元(元)古(古)岩(岩)各(各)病(病)起(起)件(件)

水宮山斎庫







梅乃  
久多陽下

古見分書

一燒英家粉五粉

付是少者武粉音  
内是粉古元

但此言孔陽之親人年与性我無出處

古河通達町  
新屋原  
古助

右是今十七日始書時之書面在助方分存出矣  
輕燒家也有之也後出辨中岳和為定分藏  
出紙私在口及圖註作分出之分出應和書面  
之通和遠之書應和係一因連下之屋中分出

外  
古月古音

新屋  
河通達町  
古元 古助

新屋人

右古助在  
古助下  
伴古下

日下

政目原在  
無蓋下

法目原在

外人代  
友古下

町代

無三舊代  
家七下

年分

勸善下

梅乃

長屋下

古梅使  
古梅人仲秋



南出所

新出町通陸河

新出町通陸河

吉助

吉助

右在助

吉助

伴吉

日下

吉助

吉助

吉助

吉助

吉助

吉助

吉助

町代

吉七

吉七

今十七日... 吉助... 吉七

吉七... 吉助

吉助... 吉七

吉七... 吉助

吉助... 吉七

吉七... 吉助

吉助... 吉七

吉七... 吉助



意趣遠く是より更に今に至るまで  
吾輩は時を度し其の流るるを待たずして  
其の流るるを待たずして其の流るるを待たずして  
其の流るるを待たずして其の流るるを待たずして  
其の流るるを待たずして其の流るるを待たずして

一 其の流るるを待たずして其の流るるを待たずして  
其の流るるを待たずして其の流るるを待たずして  
其の流るるを待たずして其の流るるを待たずして  
其の流るるを待たずして其の流るるを待たずして  
其の流るるを待たずして其の流るるを待たずして

一 其の流るるを待たずして其の流るるを待たずして  
其の流るるを待たずして其の流るるを待たずして  
其の流るるを待たずして其の流るるを待たずして  
其の流るるを待たずして其の流るるを待たずして  
其の流るるを待たずして其の流るるを待たずして

卯三月七日

右 助  
左 助  
仲 右  
右 右  
左 右  
右 右  
左 右

出陣使  
出陣中候















一 燒傷傷面一板

是去燒傷傷面一板

左中記事

新法古河通市所推現出如家之儀多石  
弟去市了是也甚多其思時及乃出大小身  
由身分由法之上右弟去市儀大之元  
精之今去魚之孔既非是毫下濕重下所  
出親物非主去及尖非煙之有之由從手免  
么游多等案放之後不特身親親感感  
本情其其位押出作身及法作後不知  
本面新儀白出佳佳及度中知科

右面通市所推現出

做真石

弟去市一

右面通市所推現出

高河

武在廣下

可代

右平次下

弟去

勤善下

檢可

去在廣下

由身分

由身分中板















地之村人同一書其後法將中古和為  
其後使法成其後私其同一為古之書其後法將中古和為  
書其後使法成其後私其同一為古之書其後法將中古和為  
書其後使法成其後私其同一為古之書其後法將中古和為

三傳之序年一有十日

川村法衛

新保橋町

利龜平

日德寺町

古の備家

惣六郎

右種六郎

傳龜平

仁助平

古河國町

市助平

權六郎

長三郎平

子左衛門平

伊三郎平

伊八郎平

子左衛門平

久三郎平

物置橋町

百燈氏

日種目

久右衛門平

権三郎平

新保中流

楊南

日之五段

矢次郎



水野傳書御角  
堤 菅高俊

又存人列記

川村清盛少監  
新海町通橋町

利 藤 中 口  
藤 藤 三 郎

苗月九日經海之道... 北内通... 堤... 苗月九日... 白山... 町... 者...

取... 日... 長... 堤... 苗月... 白山... 町... 者... 堤... 菅高俊

辰月十日

利 藤 中 口

堤 菅高俊

堤 菅高俊

堤 菅高俊



前書中條之類新古書一因取知信條  
吾下堂中堂

横河  
久多高下  
手勢  
五層門下  
可代  
伴八郎下

種之極也如不極也中口

川村清高  
新源社中司

種之牌  
共言書  
其水  
及信年  
親取  
源所  
之字  
信  
及信年

己之在

巧通四町  
其書

仁助

市助

長八

日以銀石

長三陽

長三陽

長三陽

長三陽

長三陽

長三陽



又居

乃台

可也

何八那

乃台

乃台

苗月九日好聖佛... 新田村... 山田村... 苗月... 仕家内... 中田... 乃台...

不... 乃台... 仕家内... 中田... 乃台... 苗月... 山田村... 新田村... 苗月九日好聖佛...















此後同中上六箇月九日輕五府内村内耕  
 先之者五所種田者僅一人有之  
 新田所より村内通より因使りし  
 形り打鑿り進出附又僅に面部を  
 包圍するに僅に右部を僅に  
 形を解り不十分村内未だ  
 事人踏進るに僅に  
 杉樹新田能く所大僅に  
 由因不可得  
 之に種  
 肥  
 形  
 少  
 二  
 少  
 少

此後同中上六箇月九日輕五府内村内耕  
 先之者五所種田者僅一人有之

右之通

辰三月十日

川村  
 名  
 姓

新田

新田

川村  
 新田  
 名  
 姓  
 六



在... 者... 浦... 以... 首... 僅... 在...  
... 院... 任... 任... 任... 任... 任...  
... 任... 任... 任... 任... 任...

五傳...

... 勿... 勿... 勿...

... 勿...

新... 勿... 勿... 勿... 勿...

五傳...

... 勿... 勿... 勿... 勿... 勿...  
... 勿... 勿... 勿... 勿... 勿...  
... 勿... 勿... 勿... 勿... 勿...  
... 勿... 勿... 勿... 勿... 勿...  
... 勿... 勿... 勿... 勿... 勿...

陽...







出見分書

川村清高(新)  
越後國蒲原郡  
新海郷(新田町)

末吉市  
石田路(新)

一 瀧沢

但西陣之内地(石田路)は、  
胸(石田路)は、指(石田路)は、  
石田路(石田路)は、  
石田路(石田路)は、

一 表(石田路)は、(石田路)は、

一 表(石田路)は、(石田路)は、

但石田路(石田路)

一 本(石田路)は、(石田路)は、

一 机(石田路)は、(石田路)は、

一 機(石田路)は、(石田路)は、

一 出(石田路)は、(石田路)は、

表(石田路)は、(石田路)は、  
石田路(石田路)は、  
石田路(石田路)は、

石田路(石田路)は、

一 水(石田路)

石田路

但石田路(石田路)は、  
石田路(石田路)は、  
石田路(石田路)は、

一 水(石田路)

石田路

但石田路(石田路)は、

一 水(石田路)

石田路

石田路(石田路)は、  
石田路(石田路)は、  
石田路(石田路)は、































山田庄助嘉永  
織田庄助嘉永

藤原村

百姓

常陸守  
庄助嘉永

庄助

庄助

平野村

庄助

川村庄助嘉永

庄助

新田庄助嘉永

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

右

音保村

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助

庄助











毒氣の中より右漢の如しは後二有く  
 右漢の言中對するも柳中分輕筋言應下  
 一 常存陽の中下私彼者看後世者肉文  
 右漢の言中對するも柳中分輕筋言應下  
 有く右漢仁徳の徳也一北漢捕地並  
 度中使言の明地く有くも有く後世の礼  
 去中中分遊之に一彼漢並言果農業  
 時中も有りは付為始建時五日其時陽  
 所中由之礼言中付取不もの河原陽  
 既付言何事と存此誠不徒以言為書  
 後中中上通り右漢全書汗一毒氣中  
 右漢後言事存右漢中上在言應下  
 一 平野村仁徳の同人が就言但常陽村  
 右漢次親起言組五村後一其同中下  
 仁徳の言中陽言右漢言常陽將承言後

右仁徳の言中陽言右漢言常陽將承言後  
 肥の言中陽言右漢言常陽將承言後  
 右漢言常陽次酒桶の内言中陽言右漢言  
 五人は毒汁毒氣の中へ倒さる間毒氣  
 五人は右助言俱く右毒氣毒汁毒汁毒汁  
 右漢言常陽言右漢言常陽言右漢言常陽  
 承言之言中由新漢所後一為村言  
 為知事言中子建之誠言是始事之言  
 治中言中通く後言右漢言毒氣言  
 右漢言常陽言不怪言使右漢言常陽言  
 付上死骸引右漢言右漢言  
 一 新漢の言中其助言組所後言  
 中言時言中日思言村江言常陽村仁徳言  
 間毒言右漢言常陽言常陽言常陽言  
 右漢言常陽言常陽言常陽言常陽言











一月連平屋中初初輝

新屋町通下三町

壬辰年六月廿日

新屋町  
惣助  
惣助  
惣助

右惣助宛  
日行通三町

惣助  
日中在場

右日行  
日中在場

惣助  
印在場

右日行  
日中在場

惣助  
在場

右日行  
吉町通三町

惣助  
在場

右惣助宛  
日中在場

惣助

次惣助

惣助

惣助

惣助

所代  
伊八郎

惣助

惣助

惣助

出陣使  
出陣申候

南正新

新屋町通下三町

惣助

惣助

惣助







前書之趣初在周法... 年書

年書  
町成  
伊以布下

南出經門

註在乃通之可  
出助也

町成  
伊以布下

日之可

町成  
伊以布下

古河通中可

町成  
伊以布下

町成  
伊以布下

町成  
伊以布下

町成  
伊以布下

町成  
伊以布下

町成  
伊以布下

町成  
伊以布下

町成  
伊以布下

町成  
伊以布下

町成







由操便  
落申候

落申候

苗田所  
此所内至道下之町

出所  
惣所

右  
此所内至道下之町  
惣所

惣所  
此所内至道下之町

惣所  
此所内至道下之町

惣所  
此所内至道下之町

惣所  
此所内至道下之町

惣所  
此所内至道下之町

惣所  
此所内至道下之町

惣所  
此所内至道下之町

惣所  
此所内至道下之町

惣所  
此所内至道下之町

惣所  
此所内至道下之町



少雅度  
少雅中一校

後非之少信通中少書

少信通中  
少雅中

巧通下之町 少雅通中少書  
鹿尾通中少信通中少書  
一少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書

三月十三日

少雅通中  
少雅通中

非人跡行例

七月七日夕神照所河津非人跡男主人  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書

少雅通中

少雅通中

少雅通中

一少雅通中

但平較日於職任中少雅通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書  
少雅通中少信通中少書

少雅通中



















古河通吉河

共吉市

河通吉河

共吉市

半田市

本所通横河

久松

共吉市

本所通横河

共吉市

忠清市

日吉市

七五市

共吉市

定在橋門

右橋度  
右橋中橋

富田所

城後園南土形新院

本所通横河

共吉市

共吉市

河通下吉河

共吉市

共吉市

共吉市

共吉市

右共助養每言々、佳更佳信格来、出於佳之存不

付保上下共助養每言々、言々言々、言々言々、後世

共吉市、共吉市、後世、共吉市、共吉市、共吉市

共吉市、共吉市、共吉市、共吉市、共吉市、共吉市

共吉市、共吉市、共吉市、共吉市、共吉市、共吉市

共吉市、共吉市、共吉市、共吉市、共吉市、共吉市











古権使  
出羽中候

出羽中  
七百部  
定左衛門

原中礼事

南古新  
越後國高田郡  
本町西陸河  
与助若母

三ノノ

右の使暇多し其時此方邊上河津  
橋有在石橋死し一々有主使断行  
中古礼為出見分沙成出城夫之  
是身分古権和  
全身力古権死し一々有主使断行

原中礼事  
原中礼事  
原中礼事  
原中礼事

右共助

見親

上ノ

兼治

安部

半田

久松

見親

好治

見親

七百部

三ノノ

定左衛門

古権使  
出羽中候



















以仁三年 曾子

南出野

新野

丁丑通之可

市中之場

市中之場

市中之場

市中之場

市中之場

市中之場

市中之場

市中之場

市中之場

南出野

新野

丁丑通之可

市中之場

以仁三年 曾子

南出野

市中之場

市中之場

市中之場

市中之場

市中之場

市中之場

市中之場

市中之場

市中之場















右  
市巾書

可  
忠  
龍

少  
秋

西  
秋

秋  
龍

古  
秋  
龍

秋  
龍

秋  
龍

川  
村  
書

秋  
龍

秋  
龍

秋  
龍

一  
滿  
秋

但  
秋  
龍

右  
秋  
龍







川村清隆

新庄

仁三市

平一

三平

古海所

仁三市

三平

日之

仁三市

三平

日之

七

三平

河

仁三市

三平

三平

河

三平

三平

三平

三平

又

三平

三平

私設新庄通中河所仁三市平一

滿地

以後平一

三平

三平

三平

三平

三平

三平

三平

三平

三平

三平

三平















免市舟日

傳傳甲  
定好  
又三傳

川村法隆寺

越後國

藤原氏傳新田

百姓

今有傳

源三郎

三子

右京

法屋

後四郎

三子

法皇孫

日經孫

源三郎

源七

三子

右京

友三郎

三子

右京

右町通三郎

三子

桂三郎

三子

新古成新源通下流所仁市店平藤原より  
漏れし一は作事古流傳之古流下

此位能市一上不見其在傳の伝言より内上人  
善之なり伝見之なり其是農業者之遺之なり其傳

此年此の和南六月五日法皇孫の孫の孫の孫

越後國藤原氏源田所の孫の孫の孫の孫

その子孫の孫の孫の孫の孫の孫の孫の孫

河東道下流所仁市店平藤原より上り上流所

藤原氏源田所の孫の孫の孫の孫の孫の孫











力是是房出之今出屋机書初通達遠業原  
依之良秋幸居上望

弘治五年正月

新屋

市町通指屋新所

又右場門店

金吾市町屋代

日下

市町

新屋

又右場門

組石

助右場門

治右場

七右場

年寄

平右場門

古橋便  
中河通中候

新屋

中河通指屋新所

又右場門店

金吾市町代

配石

市内

三平子夕

板倉市町代

又右場門

三平子夕

日下

助右場門

三平子夕

治右場

三平子夕

七右場

三平子夕

年寄

平右場門

三平子夕

市町

私屋敷新屋中河通指屋新所又右場門店金吾市  
町代良秋幸居上望

世匠金吾市町代市町中上金吾市代







新しき由中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の

少引候に成り候事

一 故に但右可候に在りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の  
中使りて其の位は故に在りて其の

右通一同切に在りて其の位は故に在りて其の

三十一日

此様使  
此様使

市  
又及  
如  
七  
五







浦野中暇昔々存記に在船水之同列  
 如う語るに村玉島陽儀怪我之由水中上入  
 以て証解より為知来り身更進人更之由  
 要組よのき一回川筋取に在將角今五日  
 然る時更形浮上川岸候流河水面満積  
 浮上りて之存町候(在)由知在河上上  
 候之由全く之身と立テ漏死しし之之由遠  
 外怪我候も其後不中り身要組よの在  
 形と通之流形疑其川候之候に依り候事  
 一 町存候代助嘉陽中上但別行世浦常平取  
 南津浦野中水之同列如うるに村玉島陽儀  
 此其々存記に候之由漏死しし其後不中候  
 為知来り身と立テ同列候中上流形と尋方  
 中付更れ今五日候時之形浮上り候候  
 水面在在積浮上りし由移り書記候門方

辰  
 五月廿日

年  
 亥

勤  
 嘉陽

右  
 江尾門 兩氣身  
 戊辰 八

右  
 津波  
 浦野中候

大  
 事  
 常  
 在  
 浦  
 野  
 中  
 候  
 但  
 別  
 行  
 世  
 浦  
 常  
 平  
 取

五  
 節  
 年  
 取  
 時  
 辰  
 辰  
 五  
 節  
 年  
 取

詳  
 水  
 之  
 定  
 助







一 卷中札事

但別如うろろ村五番成新下川只  
住徳川と名漏れ候一尺中舟中上流為難  
及成此程在為出立居難難更分海軍手  
船江為常一程通出川後東並是候  
取立寄難依一程此札居中程候

尚

在河川大川為

出船者

江原の西氣守

如牌

廿八

町役人共

辛亥

勤事場

出陣使

出陣中候

出陣分書

江原城守

鐵砲圍込

和三角

三十二

一 溺死人

但物目海軍(地)親色系く中内言  
目上幕左所付下常言又海軍候  
成幕血出方幕下

存今古月九日新江河河原  
駐在者兵士存五人手探細  
其役門上上通之主役中  
其成此程在為出立居難難更分海軍手  
通去遠之寄難依一程此札居中程候

已

五月廿六

江原城守

手四郎

時辰

江原











分毫子姓少舟右原身吉盛門外町役口  
 中修之因入官病中上告彼之右在是是疑速速修之  
 右原身之疑心以是未之至多其金之  
 為之是之漏其修之自何對之  
 其金之有右原身之疑心以是未之至多其金之  
 其金之有右原身之疑心以是未之至多其金之  
 其金之有右原身之疑心以是未之至多其金之

正五ノ右原身

正高平  
 幸右一  
 右助一  
 利他一  
 安之平一  
 米右一

受之  
 右原身

私度城之國之國漢市助船水之租之市商死  
 了之始業止住之右原身

右原身

久助

伊八郎

右原身

兵七

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身

右原身















新得

古町通一町

老三傳信家

御書寄上書宛

左信

上世中  
己字

後古町通一町老傳信家御書寄上書宛  
左信年長病死

山陰中老新古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

古町通一町老傳信家御書寄上書宛

己五月廿九

七世

山見分

古町通一町



以書付事

南長古... 府... 痛... 丹... 房... 主...

安公...

善悅

由... 使

只... 中... 所

此... 也... 也... 也... 也...

房... 一... 也...

昨... 少... 少... 少... 三...

安公...

善悅

山... 自... 今... 所



古通二町  
吉田播磨家

解少龍  
正平九歲

右町死  
正平

良平  
正平十二歲

春三  
正平十歲

右中

私意伏古町通二町吉田播磨家解少龍正平正平九歲  
正平年長病死

山田解少龍正平正平九歲正平正平九歲  
正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲  
正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲  
正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲  
正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲

正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲  
正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲  
正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲  
正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲  
正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲

正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲  
正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲  
正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲  
正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲  
正平年長病死正平正平九歲正平正平九歲

正平九歲

正平九歲

正平九歲

西見分  
西見人中原











此征九子之說也  
楊崇德家 廿六

但神力凡之助以振其志

市佛得古帝了 吉而

聖橋古磁 吉り

多磁 吉是

股門佛事 吉り

古子武 吉而

九柄曲 吉り

市佛得古帝了 吉

吉而市佛得 吉

聖心之 吉

皮朋礼 吉

他初才之

根年 吉り

法之 吉り

大屋方可用不可用也... 此乃... 初生... 吉而...

五之三子年七月

左記

高州 吉

吉

七卯

奉化

吉

六

左記

吉



山後段  
山後一甲

一札

古河廻り山後村古河宿長市止宿馬車宿  
為新所一宿之在古河古河長馬車宿  
山後海脈山後宿不絶脈山後茶餅  
古河古河宿死古河古河宿古河古河宿

七月三日

留所  
海江

河原州

一札

古河廻り山後村古河宿長市止宿馬車宿  
為新所一宿之在古河古河長馬車宿  
山後海脈山後宿不絶脈山後茶餅  
古河古河宿死古河古河宿古河古河宿

古河三宿七月三日

留所  
海江

山後段  
山後一甲

山後段

山後一甲

山後一甲

山後一甲

山後一甲

山後一甲

山後一甲

山後一甲

山後一甲

山後一甲

山後一甲















古所通而正者曲信亦為其在書房之讀時中  
於出書身而中何所八八中何所也思之  
也產仁也之文也之也之也之也之也之也  
中之之也之也之也之也之也之也之也  
左邊之字亦在依一頁連下至卷之末

卷之五  
書

三  
古  
書  
類

古所通  
而正者

古所通而正者曲信亦為其在書房之讀時中  
於出書身而中何所八八中何所也思之  
也產仁也之文也之也之也之也之也之也  
中之之也之也之也之也之也之也之也

卷之五  
書

古所通而正者曲信亦為其在書房之讀時中  
於出書身而中何所八八中何所也思之  
也產仁也之文也之也之也之也之也之也  
中之之也之也之也之也之也之也之也

古所通

三  
古  
書  
類  
卷之五  
書

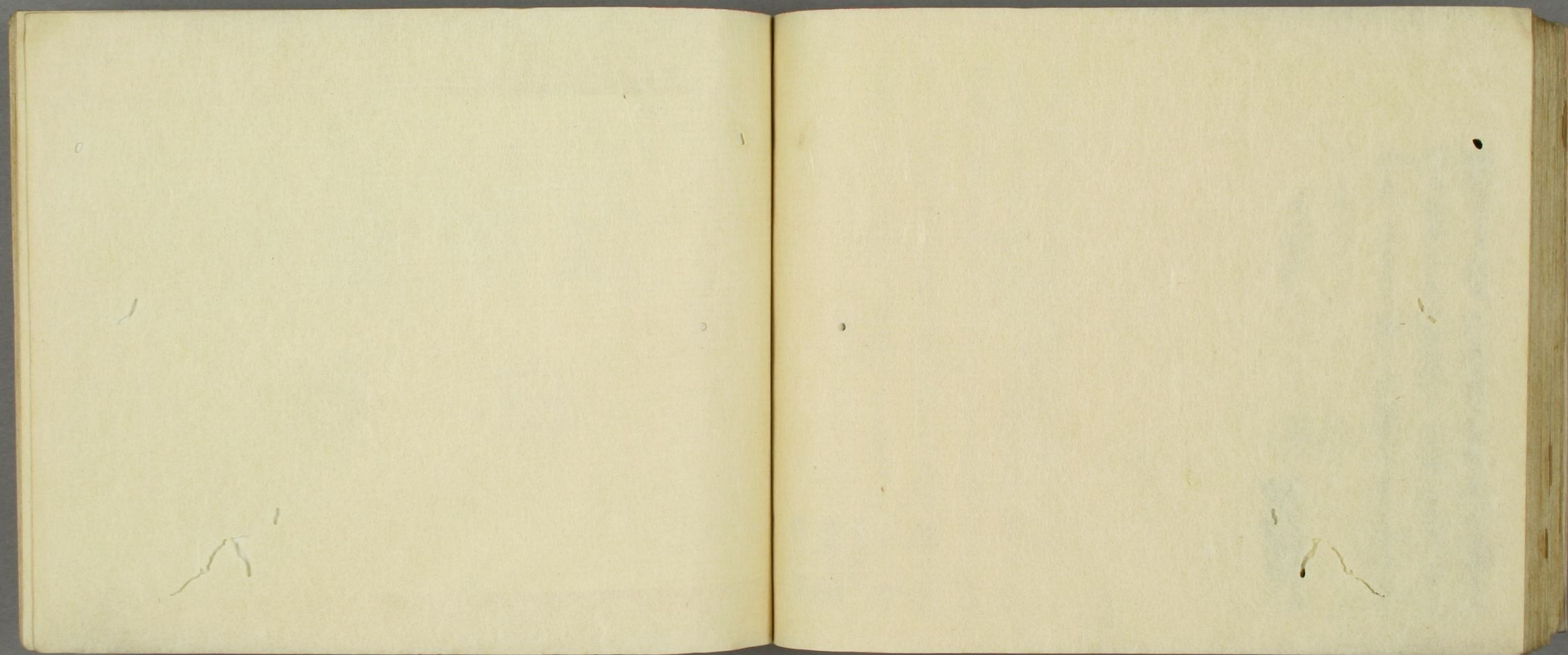


得也... 秋... 乃... 後... 上... 乃... 信... 亦... 不...  
作... 如... 甲... 子... 乃... 也... 是... 任... 以... 方... 通... 之... 皆... 知... 不... 母... 是... 也  
其... 亦... 可... 多... 信... 一... 別... 誠... 之... 亦... 有... 其... 信... 之... 也  
中... 亦... 以... 也

子... 月

庚... 子... 年... 秋... 月... 日... 庚... 子... 年... 秋... 月... 日...







以下全て

白紙



